

◎元旦礼拝聖句 説教題「さあ、向こう岸へ渡ろう～一人を求めて～」(詩篇107篇29, 30節、マルコの福音書4章35～41節) 「主が嵐を鎮められると波は穏やかになった。波が風いだので彼らは喜んだ。主は彼らをその望む港に導かれた。」(107:29, 30) 「さてその日、夕方になって、イエスは弟子たちに『向こう岸へ渡ろう』と言われた。」(35)

◎「一年の計は元旦にあり」とあります。私たちは現状に甘んじやすいのです。しかし、教会の頭であられる主イエス様が「さあ、向こう岸へ渡ろう」と御声をかけてくださっています。行く先は主に任せて、主が行おうとしておられる御業に与る一年間で有りたいものです。

◎詩篇107篇から150篇までは第五卷である。これらの詩篇は、神さまの働きを賛美し、正しい生き方の祝福について詳しく語り、解放を神様に感謝し、神さまの素晴らしいみ言葉について神さまを賛美している。これらの詩篇は、え私たちが神さまに献げることの出来る最も優れた、えは忠実で従順な人生なのだと言うことを示されている。

詩篇107篇の主題は「救済者なる神さまへの感謝」です。23節から32節までの主題は「船乗りの感謝」です。船乗りたちは広大で深さも知れぬ大海原で、嵐が起る背後にも神さまがおられるのです(マルコ4:30-41)。船が波にもあそばれ、船員達が狼狽していても、神さまが民の祈りに応答され(6)、捕囚民の祈りを聞かれたように(12)、彼らの叫びに答えて下さるのです(28)。キリストは、神さまの権威によって嵐を静められたのです(マタイ8:26, ルカ8:24)。

◎マルコの福音書4章35節～5章43節の主題は「いろいろ奇跡」です。35節以降はガリラヤ湖で起こった出来事です。ガリラヤ湖は海面下約210メートルの水域で、丘に囲まれている。海の近くで湖の上を吹く風が力が増し、しばしば予告なしに激しい嵐が起こった。弟子の中には熟練した漁師がおり、人生をこの巨大な湖で漁業をしてきたが、この突風の間中恐怖に覚えたのです。弟子たちが恐怖におびえたのは、嵐が自分たち全員を滅ぼしそうであり、イエス様は何も気づかず関心を持っていないかのように見えたからです。困難はどの様なものであれ、選択肢は二つある。①心配し、おびえ、イエス様はもはや気にかけくださらないように思い込むこと、②恐怖に抵抗し、イエス様は側にいて助けてくださると信頼する。もし自分がうろたえているように感じたら、自分には神さまが必要であると告白し、それから神さまが面倒を見てくださると信頼しましょう。家族の救いのため、あらゆる問題に対してもです。